

令和3年9月8日
高浜市文化スポーツグループ

高浜市立図書館機能の移転（既存施設への図書館機能複合化）
に係るサウンディング型市場調査の結果について

高浜市立図書館機能の移転（既存施設への図書館機能複合化）に係る市場性の把握や実現性の確認、事業者の意向などを把握し、今後の検討に反映することを目的として、今回、民間事業者の皆様から、幅広くご意見・ご提案をいただく「サウンディング型市場調査」を実施しましたので、結果の概要を公表します。

1 サウンディング型市場調査の経過

- 実施要領の公表：令和3年7月8日（木）
- 調査の参加申込：令和3年7月19日（月）～8月10日（火）
- 調査の実施【4団体】：令和3年8月19日（木）・24日（火）

2 参加者からの提案・意見等の概要

（1）各移転先候補における図書館事業や関連事業のアイデア、期待される効果

以下のとおり、意見・提案がありました。

①いきいき広場が有する機能を活かした事業アイデア

- ・健康増進が叫ばれる時代であるので、いきいき広場は「健康・高齢・子ども」に特化した図書館にするべき。
- ・いきいき広場と美術館を併用する場合、各施設の利用者層や利用目的、利用形態に配慮した図書の排架や図書館サービスの提供が必要である。例えば、いきいき広場は施設の主要利用者層である高齢者と子育て世代を主対象とし、日常生活における問題解決に役立つ図書や窓口サービスが考えられる。
- ・立地条件を考慮した機能・サービスの転換が考えられる。図書館の「動的サービス」を誘導する拠点になり得る。

②かわら美術館が有する機能を活かした事業アイデア（図書館事業に関するアイデア、既存の美術館事業の発展に向けたアイデア、新たな事業展開に関するアイデア）

- 「見るだけの美術館から、何かできる美術館」が重要になる。ちょっとした体験でこれまで来なかった人が来るきっかけになる。
- 文化の体感拠点にできると思う。教育的展開としてもいい。
- 「産業・仕事・芸術等」の観点から、調べもの、地域資料、ビジネス等の図書館の「静的サービス」の拠点になり得る。
- かわら美術館は、大人（若者、現役世代、高齢者）を主対象とし、出会い、発見、探求の場として、発想を得たり自己を高めたりできる空間、コンテンツ、サービスを展開するといい。
- 美術館1階ロビー空間を活かした図書館サービスを展開するといい。前のテラスも合わせた読書空間の創出が可能となる。
- 美術館1階ホール前のホワイエ空間は、展示に利用しており、椅子やテーブル等が設置されていないため、展示観覧者以外の滞留は少なく、無人に見えやすい。展示空間を縮小改修し、受付カウンター前のロビー空間とつながりの感じられる新たなスペースを創り、読書空間として供することが可能と考える。

③各移転先候補において期待される効果（市民、市民団体、施設利用者、地域、事業者等にどのような影響を与えることができると考えられるか）

- 図書館をいきいき広場に移すと健康・福祉関連の利用者が増える可能性がある。
- 市民団体に関しても、活動場所と図書館による情報収集場所が近づくことにより効果が生まれる可能性はある。
- 図書館利用層と美術館利用層の交じり合いが期待できる。
- 美術館に移転すると学習の場や教育の場としてもいい循環ができると思う。
- 複合化したメリットがコスト減だけでなく、何かソフト的な効果があるといい。

④その他、事業展開や運営に関するアイデア等

- ◆いきいき広場やかわら美術館以外における事業展開のアイデアや期待される効果
- ◆市民、市民団体、事業者、関係機関等との連携に関するアイデア
- ◆学校司書（学校図書室）との連携に関するアイデア

◆経費削減（収入確保）につながる取組みに関するアイデア

- 今後の蔵書数の見込みを見てもどちらか一方の運営では難しいと感じる（併用での運営が望ましい）。
- 学校支援機能に関しては、もっと手厚くフォローしていくことが求められる。
- 複合化を活かし、いままで図書館で行ってこなかったワークショップなどを展開しやすくなる。その事業と図書を融合させると波及効果がうまれる。
- 地元の方と連携して、公民館などにプチ図書館をいくつもつくり展開すると排架冊数が減っても本が置いてある場所は増えると考ええる。
- 自動貸出機を導入すると人件費の削減につながる。いきいき広場の候補室の1カ所は無人化することも検討されるとよい。
- 図書館が美術館に複合されるとシアターの活用展開に期待ができる。

(2) 各移転先候補における実現性の確認、課題等の整理

以下のとおり、意見・提案がありました。

①図書館機能として活用した場合の施設・設備等の課題、検討が必要な事項

- 人を呼び込む魅力的な場所にはインフラ（建築・設備・内装）の力に頼らざるをえない部分もある。日常的に通う場所は“居心地のいい場所”でなければならないため。
- 市の方針として、例えばホールや陶芸創作室のような大空間を図書室に変える必要がある場合、建築や内装だけでなく、空調や照明、防災などの設備面も全面的に見直す必要がある。
- 美術館のモノコトギャラリーを読書スペースにという提案もあるが、虫や菌のことを考えると難しい。収蔵庫やギャラリーの美術作品や資料の虫菌害防除のため、該当居室は図書館として使わないことが強く望まれる。

ただし、講義室や会議室を学習スペースとして使用することは検討可能である。同様に、市の方針として2階の陶芸創作室を図書館として利用する必要が生じた場合、展示室の虫菌害防除の観点から、2階の展示室とロビーを図書館とは別区画とすることが望ましい。

②排架方法、レイアウト、空間デザイン、什器等に関するアイデア

- 明るい空間にすることが望まれる。

- いきいき広場は、会話してもいいような空間をつくり出すこと。
- 家具・什器の自由度は高まっている。特にこどものコーナー。
閲覧席はカウンター型をつくられたほうが使い勝手が良い。
- 美術館 1 階ロビー空間は建築・内装を改修しなくても、デザイン性に配慮した家具・什器やグラフィック手法で空間を変えることが可能である。
- 美術館屋外テラスの活用も考えられる。ただし、利用者の安全性や快適性を確保するための設備も必要となる。
- 棚に本を詰め込んでも手には取らない。“図書館”にすることに重点を置くこと。本の倉庫にならない見せ方が重要。

③開館日・開館時間のあり方

- 市民目線でいうと両方（図書館・美術館）同じ開館時間の方がわかりやすいと思うが、いきいき広場は週休 1 日にしてもいいと感じる。
- いきいき広場は、駅直結・まちの中心地という利便性を活かして、閉館時間を遅らせたほうがいい。
- 美術館に関しては、図書館部分と美術館部分の開館時間・日が異なってもいいと思う。

④その他スペースの活用や維持管理に関するアイデア・課題

- かわら美術館の前の森前公園をもっと柔軟に活用できるとさらにいい空間になる。
- 経費の面でいうと陶芸創作室を廃止した方がいいのかもしれないが、美術館の核の部分になっていることも確かである。
- 図書盗難への対応のため IC タグを設置することなども検討するとよい。

(3) 指定管理者募集に際し考慮すべき事項

以下のとおり、意見・提案がありました。

①指定管理期間

- 5 年がベストであると感じる。地元の連携や関係性の構築に最低でも 2 年は必要である。とはいえ、マンネリ化を防ぐ必要もあり、5 年の期間が最適である。
- 事業者が提案する図書館実現のためには 5 年の期間が必要と考える。
- 指定管理者が一体運営の体制を構築し、業務の習熟度を高め、運営を安

定化させるのに少なくとも3年、成果を出していくために5年かかると考える。

- 指定期間を長期間にする場合は、指定期間中であっても、利用者の動向や要望に応じた業務仕様の見直しや、それに伴う指定管理料の見直しについて、協議できることが望ましい。
上記の条件が確保されるなら、人材の確保・育成や、展覧会等の計画的な準備・推進のためには、指定期間は長いほどよい。
- 設備管理の観点でいえば、長期である方がありがたい。

②参入にあたっての阻害要因・緩和条件等

- 学芸員や司書といった資格要項があると参入へのハードルは高くなる。公募の際は必須要件から外すことを検討すると良いと思う。
- 条件をしぼると大手業者しか参入できなくなる。大手になると費用的にも行政は負担になると考える。中規模企業が提案する費用で運営できることが望ましいと思うので、条件を緩和してほしい。
- 美術館に関しては、博物館法に準拠した施設の方がいいように思う。
- かわら美術館の建物の老朽化が進行していることから、毎年度の修繕料の増額とともに、中長期的な修繕の予算措置についても検討されたい。
- 図書館法を外した図書館でもいいと考える。規制や概念がなくなり多くの業者が参入しやすくなるかもしれない。

(4) その他

以下のとおり、意見・提案がありました。

- 図書館と美術館のソフトの面をどうしていくかが重要である。
文化の中枢を担っていく事業なので方針が大切である。
- 市民の合意形成の努力は今後も必要である。
- 新図書館開館に向けて、どのような機能やサービスを行うか、そのためのプランや備品選定等を含め、指定管理者の意向が反映される仕組みがあると良い。
- 美術館の陶芸教室などのサービスが無くなる可能性があることを懸念している。
- 複合施設として設計されていないかわら美術館の建物で、図書館機能と美術館機能といった専門性の高い業務を共存させるには、いくつか折りあいをつけるべき課題があると考えます。(例えば、美術館の作品や資料の保存機能を維持するためには、収蔵庫や展示室だけでなく、共用空

間においても虫菌害の防除及び空間の区画・区分を行う必要性や、そのための図書館サービスや図書館利用者の動線の工夫など）
今回の提案は、その課題の解決を図った上で、可能なサービス・アイデアであるということで理解されたい。

3 今後の予定

今回のサウンディング型市場調査の結果を高浜市立図書館機能の移転（既存施設への図書館機能複合化）の取組の参考として検討してまいります。

また、本調査にご参加いただきました事業者の皆様方には、厚くお礼を申し上げます。

担 当 高浜市 文化スポーツグループ
電 話 0566-52-1111
 (内線 331)
メー ル bunka@city.takahama.lg.jp